

議 事 要 旨

1 会議の名称 令和6年度 第3回掛川市子ども・子育て会議

2 会議日時 令和6年9月25日（水）13時30分～15時45分

3 開催場所 掛川市役所 4階 会議室1

4 出席した者の氏名

（1）委 員 永田恵実子委員、中村千里委員、青野容幸委員、石川浩子委員
太田治委員、太田はるの委員、沖孝子委員、小澤直明委員
小野田優希委員、金原義明委員、齋藤真喜子委員、鈴木亜友美委員
鈴木淳委員、大嶽雄二委員、山下真理恵委員、山田悟史委員、吉井桐子委員

（2）執行機関 （事務局）

（3）そ の 他 （株）サーベイリサーチセンター 静岡事務所 田原氏、長嶋氏
（掛川市こども計画策定業務 委託業者）

5 議事

報告事項

- （1）掛川市こども計画基本理念及び表紙絵について【資料1－1】【資料1－2】
- （2）子ども・子育て会議委員からの御意見について【資料2】

協議事項

掛川市こども計画素案について

6 事務局より報告事項（1）、（2）について説明を行い、委員から意見を伺った。協議事項については部会ごとに意見交換を実施したのち、各部会の意見交換の結果を発表した。主な意見は以下の通り。

【報告事項について】

以下、○は委員からの意見、●は事務局からの回答

<子ども・子育て会議委員_現行計画に対する御意見について【資料2】>

- 「人材不足に関すること」のNo. 5「保育士宿舍借り上げ支援事業」による保育士の確保に関連し、掛川市のターゲットは近隣の学生を想定しているのか、県外も含め広範囲に想定しているのか。対象によって手法を検討するべきである。
- 市内や通勤圏のエリアを中心に想定している。ただし、県外に本社がある法人では転勤で来られる方もいるため宿舍借り上げの補助を活用していただいている。

<掛川市こども計画素案>

- 計画内で学校教育についてあまり触れられていない。地域部活・地域クラブや学校再編についても記載するべきである。
- 学校教育については主に素案91ページや121ページを中心に記載している。学校教育や障がいに関する部分など本計画内に書ききれない内容については、二次元コードで関連計画へのリンクを設置する予定である。学校の再編に関する記載については教育委員会と協議する。
- 本計画は何歳から何歳までを対象としているのか。0～2歳に関する記載や、架け橋プログラムや学園化構想に関する記載がない。こども政策課とこども希望課のメイン事業に特化した記載となっている。
- 報告の中で、量の見込みの確保方策についての説明が目立ってしまったが、4章の推進施策の中で分野ごとに課題と重点施策を検討している。各部会の意見交換の中では是非意見をいただきたい。

【協議事項について】

<子ども・子育て部会>

- 切れ目のない支援ということについて、特別支援学校を出た後、行き場のなくなってしまうこどもがいるという現状がある。特に肢体不自由のこどもは難しい。
- 街コンなどの参加について、引っ込み思案の人など人によっては自分から行くのが難しいため、そこを後押しできる支援が必要。
- グリーゾーンのこどもの親に対し、情報提供するような支援があると良い。
- 二次元コードで、様々な施策などの市が見て欲しい情報を見れる計画書になると良い。保護者にとっても紙だけでないのは新鮮で良い。
- 病後児だけではなく、病児保育のサービス提供をすることが、仕事と子育ての両立の上では重要ではないか。
- 園で夜ご飯の提供をしているが、知らない保護者が多いため、子育て家庭に発信できると良い。
- 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）、学校評価システムについての記載が薄い。学校の再編と架け橋カリキュラム、地域部活についても、もっと記載をするべき。
- 保育士・保育者の文言について統一すべき。
- 135ページの量の見込みについて、毎年5%程度減らす見込みとしましたと言い切らずに、関係法人と協議していきますと記載したほうが良い。
- 1号、2号、3号認定だけではなく、新2号認定があるのではないかと。市は新2号認定を減らしたいという魂胆があり、言及していないのではないかと。
- はじめの100か月の育ちビジョンについて、こども家庭庁でも推進しているため、掛川市もアピールしていくべきではないかと。

<子ども・若者部会>

- 市でやることと、民間でやることの区分けについて考えはあるか。いろいろやりたいことが増えると手が回らない部分が出てくるため、どこまで市の範囲とするか決めた上で取り組んだ方が良い。
- 掛川市独自で、掛川市に就職したら返済が免除されるような奨学金制度をできないか。
- 医療費について、大学生まで負担軽減していただけるとありがたい。
- ファミサポの研修に、市の職員も一緒に参加して学んでいただきたい。
- ファミサポの利用について、どうしても不安感があり二の足を踏んでしまう親がいる。ファミサポの研修に参加してもらったり、研修を知ってもらったりすることで不安感が軽減するのではないか。
- 経済的支援について、現在は給付の形での取組となっているが、減税という形も検討できないか。
- Uターン就職だけでなく、市外・県外の若者が大学等で掛川市に来て、そこで地域を気に入って就職するというIターンを推進する取組も必要ではないか。
- 医療体制の強化について、DX化のサポートなどをすることで、効率的な医療提供ができ、医療体制の強化につながるのではないか。
- ハローワークでは、こどもが突発的に発熱したときに休みやすい職場の希望が高い。くるみんマークの推進や、子育て中の職員がいる職場のその周りの人への支援、特に金銭的支援などがあると良い。

<貧困部会>

- 結婚願望がない人の理由を把握し、それに対する対策をとるべき。本当は結婚願望があるけれど諦めている人が、結婚願望がないと回答しているかもしれないため掘り起こしが必要。
- 困っている人ほど、施策や制度の周知が難しい状況がある。学力がないために貧困につながってしまう。
- 計画をスリム化し、計画の力点を絞って定める必要がある。施策の効果はタイムラグがあり短期では現れないため、出生数700人を維持するという目標はもっと先の話ではないか。
- 市はどうしても誰でも公平に全体的に取り組もうとするため重点化ができていない。結果的に計画と実態が乖離してしまっているものもある。素案内に消費者教育推進事業の記載があるが、実態は100%高齢者向けである。重点を定め本当に効果のあることをする必要がある。
- 行政は言えばやってくれるが、言わないとあまりやってくれない、広く薄くの傾向がある。行政側から積極的に意見を摘んで届けますという姿勢が弱い。
- 施策を検討する中で、掛川市内での出生率増加と流入によるこどもの増加を分けて考えるべき。流入による出生数増加は国内での取り合いの形になる。
- 地域のコミュニティが希薄化した結果、これまで地域コミュニティ内で解決していた物事も、学校や行政が1件1件の話を聞かなければいけなくなり、手が回らなくなる。
- 行政もある程度、クレーマーを突っぱねる姿勢は見せていったほうが良い。クレーマーの意見を細かく聞いているとクレーマーしか残らない。毅然とした態度で接するべき。
- 気を使いすぎる時代なせいで地域コミュニティが希薄になっている。おせっかいをできる雰囲気づくりが必要。挨拶をすると不審者、土砂降りでは他の家の子を車で送ったり、家で預かるのも憚られるようになっている。